

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	15H05708	研究期間	平成27(2015)年度 ～令和元(2019)年度
研究課題名	持続可能なスマートモビリティ向け情報基盤プラットフォーム研究	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	福田 晃 (九州大学・システム情報科学研究 院・教授)

【平成30(2018)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、人、車や各種交通機関などの円滑な移動情報の提示システム（スマートモビリティ情報基盤）において、（1）新サービスの提供や運用で顕在化した様々な課題を、迅速にシステムにフィードバックできる情報基盤の構築技術を確立し、（2）低コストな車両検出、屋内測位システムなどの要素技術を研究するとともに、（3）九州大学伊都キャンパス案内などを構築し、提案システムの有効性を実システムで検証するものである。

研究は順調に推進されており、論文誌16件、国際会議62件など発表論文等も多く、また地域と連携した実システムの構築なども評価できる。一方、本研究ではいまだ要素技術的な側面が強く、実証システムも小規模であるので、今後、より一層の大規模化に耐えうるスマートモビリティ情報基盤の構築に向けて、研究と実証がなされることを期待する。

【令和2(2020)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	<p>持続可能なスマートモビリティ情報基盤プラットフォームアーキテクチャ、特に、ライフサイクル指向、運用からシステム設計へのフィードバック技術、安心・安全な設計／検証／構築技術の確立を目指して研究が進められ、多様なサービスアプリケーションに対して、実際に、設計のみならず実運用にこぎつけ、社会的にも魅力的な活用事例としての成果が上がっている。さらに、本研究で得られた研究成果は、学術論文や国際会議、新聞報道で公表されるとともに、多くの学術賞の受賞も認められる。</p> <p>ライフサイクル指向、フィードバック技術を実現する普遍的な手法、加えてそれに伴う性能向上に関する成果は十分には示せていないものの、社会の発展への実質的な貢献の点において価値が認められる。</p>